

石川県下の野ネズミ類の分布と生息場所

大 串 龍 一

Ryoh-ici OHGUSHI : Distribution and habitats
of small mammals in Ishikawa Prefecture

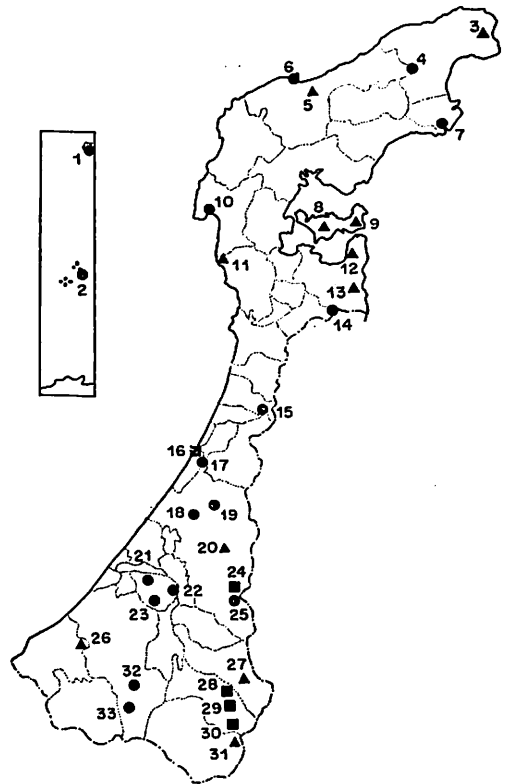
ま え が き

石川県下における野ネズミを主とする小型哺乳類の種類相とその分布は、1960年代まではあまりよくわかっていなかった。また、農林業におけるそれらの加害状況も、ある時期のノウサギの植林地の加害のような大きな問題となったことはない。しかし時折、ネズミの害と思われるものが、主に畑作あるいは果樹で局地的に問題とされることがある。

私の研究室ではネズミ類をはじめとする小型哺乳類の種類相とその生息状況を明らかにするために、1973年から石川県下の調査を開始した。これは他の調査と平行して行われているため組織的なものではないが、現在までにある程度の資料が蓄積されてきた。またその間に我々の研究室とは別に、県下の小型哺乳類の調査報告も幾つか公表されたので、我々のデータにあわせてこれらの情報を整理して、取り敢えず種類相と分布について、石川県で今までに明らかになってきたことを報告する。ここに引用した資料を集められた方々に深謝する。

調査場所と方法

第1図はこれまでの15年間に行われた石川県下の小型哺乳類の調査地点のうちで記録のあるものを示す。このうちの17地点は私自身の調べたもの(8,12,13~23)、5地点は私共の研究室の大学院生や学生が調べて報告したものの(25,26)、11地点はそれ以外の文献や報告に記録されているものである(1,2,3,4,5,6,7,9,10,11,24)。この調査地点については、ほぼ同じ時期の調査で、接近して数点の調査結果がある場合、ほぼ同じような環境と考えられる地点は一つにまとめた。また、われわれ以外の調査で地名の記録がかなり広い地域(市町村など)をさす場合、その地域のほぼ中央に記した。今回はこれら33地点の記録にもとづいて主な種類の分布についてまとめる。これらの調査地点にはただ1回だけの採集から、長期的に繰り返して30回以上採集した所までである。また私が採集して良い調



第1図 石川県下における小哺乳類の調査記録のある地点

- : 著者自身の調査地点
- : 著者の研究室メンバーの調査地点
- ▲ : その他の調査記録のある地点

図左上の長方形は能登半島沖の離島、舳倉島と七つ島を示す。採集地点番号1~33は地名を省略した。必要な方は著者まで問い合わせられたい。

査地であることを確認したあと、研究室のメンバーによって継続調査が行われた所もある。そのため1地点の採集個体数は少ない所で2~3個体から多い地点で1000個体を越えている。

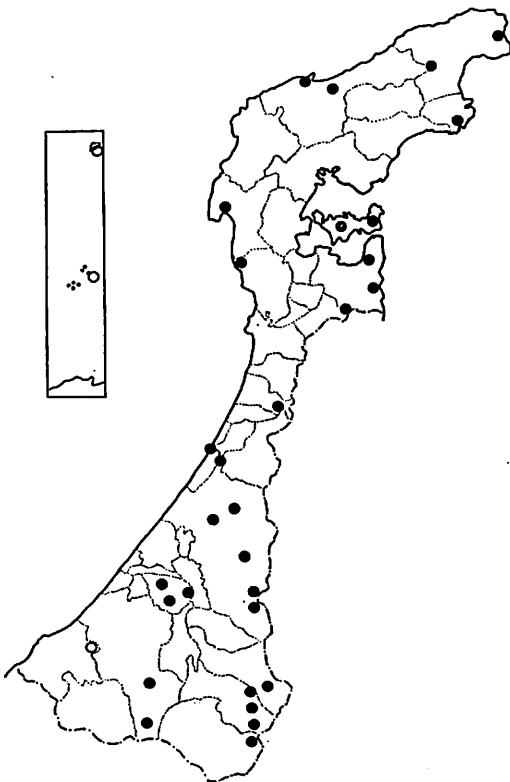
この調査でわれわれの使用したトラップはかごわな、シャーマン・トラップ、はじきわな、パンチュー・トラップの4種類であった。これらのトラップによってよく

かかるネズミあるいは食虫類の種類がいくらか違う傾向があるので¹⁶⁾、トラップによる誤差を少なくするために、出来るだけ1か所に2~3種類のトラップを同時に使用した。我々以外の調査では、主にはじきわなが用いられたようである。

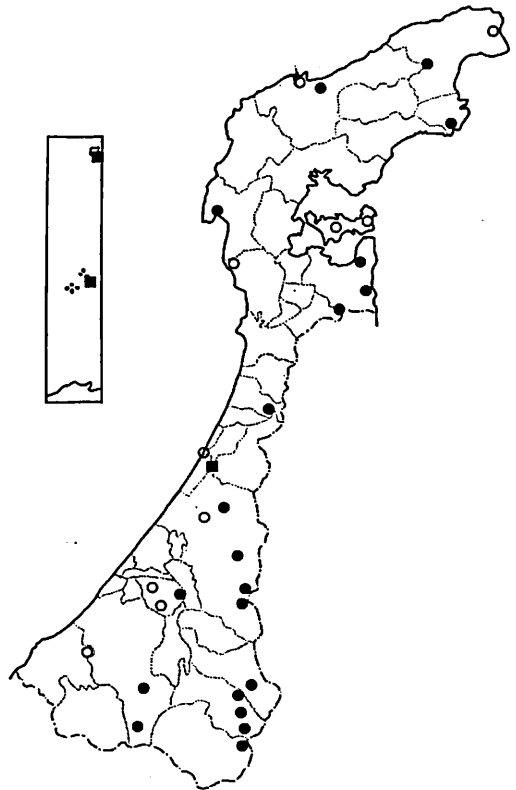
結果および考察

地点によって採集されたネズミ類の個体数に大きな違いがあるが、これは先に述べたようにそれぞれの地点の調査回数と設置したトラップ数が大きく違っているためである。そこで今回は採集された個体数に関係なく、それぞれの種類が1個体でも採集されたか否かによって分布状況をまとめた。ただし、明らかにその地点に住み着いておらず、偶然に移動してきた個体と判断されたものあるいは同定上問題があるものは除いた。生息密度や種間関係については別に検討することとした。

第2図はアカネズミの採集された地点を示す。このように採集地点のうち離島を除くほとんどすべての所で採れている。海拔数mの海岸の松林から、白山の2700mの頂上近くまであらゆる地域に分布する。その生息環境も



第2図 アカネズミの分布
●：採集された地点
○：採集されなかった調査地点



第3図 ヒメネズミおよびドブネズミ（野外性）の分布

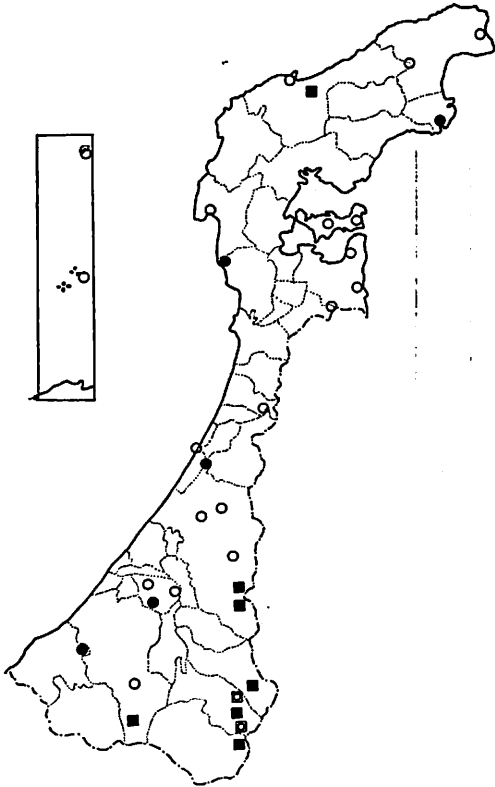
- ：ヒメネズミの採集された地点
- ：ドブネズミの採集された地点
- ：どちらも採集されなかった調査地点

平地の草原、耕地、松林、常緑広葉樹林、山地の落葉広葉樹林、高基草原、高山の針葉樹林まで多くの植生にわたっている。このアカネズミが県下でもっとも優勢なネズミと言える。

第3図はヒメネズミおよびドブネズミの採集点を示す。ヒメネズミの採集された地点は20でアカネズミより少ないが、かなり広く分布する。アカネズミと共存することも多い。平地の草原や耕地では採れていない。しかし能登では海岸のすぐそばの松林で海拔10m位のところでも採集されている。

ふつう人家内にすむとされているドブネズミが野外でとれた所は図のように3地点であった。これは上記のアカネズミやヒメネズミと対照的に、島と干拓地で採れている。ふつうのネズミがあまり入っていない所である。なおここには出していないが、同じく人家にすむハツカネズミが干拓地などで採集されている。

第4図は、ハタネズミ亜科の2種類、ハタネズミとミスネズミの分布である。青草を食う性質が強く、農業



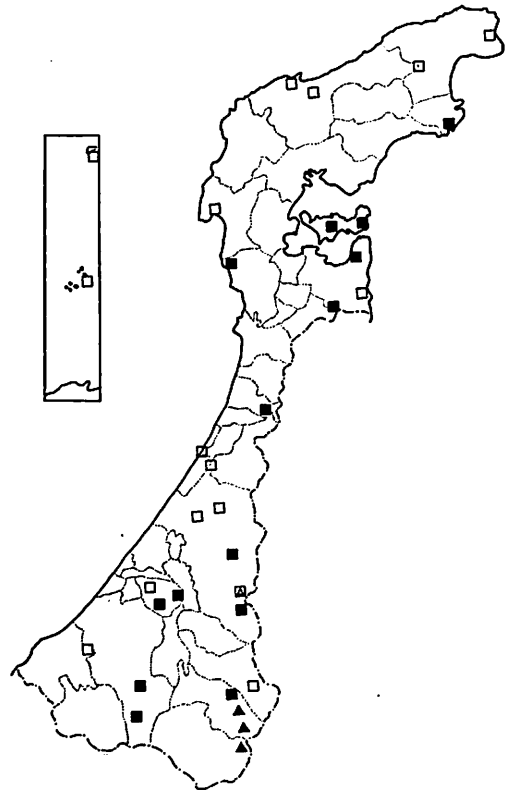
第4図 ハタネズミおよびスミスネズミの分布

- ：ハタネズミの採集された地点
- ：スミスネズミの採集された地点
- ◻：両種の採集された地点
- ：どちらも採集されなかった調査地点

害獣となることが多いハタネズミは7か所で採れているが、主として低地の草原あるいは谷間の草地で採れている。それにたいして海拔300m以上の森林地帯とその周辺でスミスネズミが採れている。ただしハタネズミには高地の森林周辺でスミスネズミと共存している例が2つあった。

以上のほか石川県からはヤチネズミとカヤネズミの記録がある。このヤチネズミについては記録の上ではトウホクヤチネズミとニイガタヤチネズミに分けてあるものと、単にヤチネズミと記したものとがあるので種類の確認が出来ず、またその分布は山地の高い地点に限られるのでここでは述べない。カヤネズミは加賀の辰口町の低地の湿原でとれており、ここがこの種類の日本海側の分布北限である。

次にネズミ類と一緒に採集されることが多い食虫類のモグラ、トガリネズミ類についてのべる。ただしモグラについては、石川県では現在までに平地から低山帯にかけてはアズモグラ、高山帯からはミズモグラが記録され



第5図 ヒミズおよびヒメヒミズの分布

- ：ヒミズの採集された地点
- ▲：ヒメヒミズの採集された地点
- ◻：両種の採集された地点
- ：どちらも採集されなかった調査地点

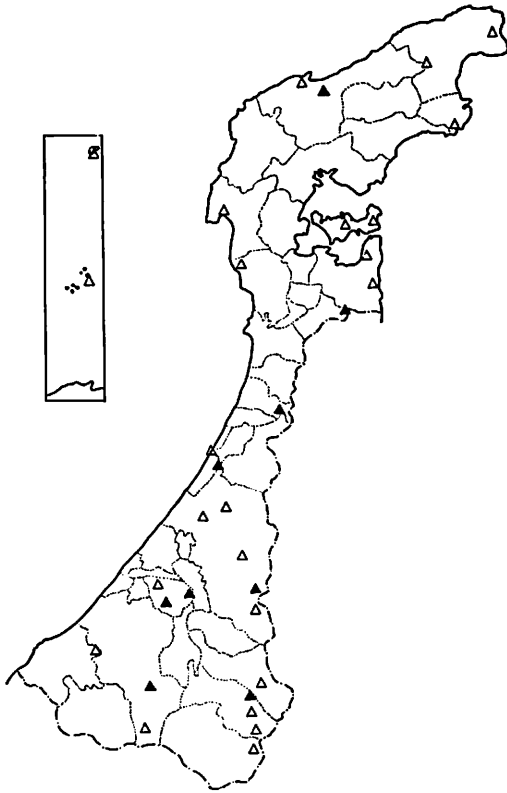
ているが、ネズミ類と採集方法が違って、我々の調査にはかかってこなかったからここにはあげない。

第5図には小型の山地性モグラであるヒミズとヒメヒミズの採集地点を示す。ヒミズは15地点、ヒメヒミズは4地点で採れている。これで見るとヒミズは丘陵地から山地にかけて生息しており、より高い山地にはヒメヒミズがいることがわかる。1か所で共存しているが、ここは海拔350mの高茎草原であった²⁶⁾。

第6図はジネズミの分布を示す。9地点で採れているが、河北潟干拓地を除くと低山帯の山林中で採れることが多い。食虫類ではこのほかに石川県からトガリネズミとカワネズミが数地点で記録されている。前者は白山の高い部分に限られ、また、後者は生態が大きく違って普通の調査にはかかってこないで、ここでは取り上げなかった。

引用文献

1) 愛知学院大学歯学部第二解剖学教室 (1985) 小哺乳類の採集記録. 第一集. 67pp. 2) アジア航測 KK (1986) 能登原子力地点陸生動物調査報告書. 139pp. 3) 北陸電力 KK (1982) 七尾太田火力発電所環境影響調査書. 564pp. 4) 花井正光 (1977) 哺乳類. 石川県の自然環境. 第3分冊 (鳥獣) 149~198, 石川県. 5) 花井正光 (1978) 白山高山帯の哺乳類相. 石川県白山自然保護センター研究報告 4 : 83~92. 6) 石川県 (1978) 第2回自然環境保全基礎調査. 動物分布報告書 (哺乳類). 43pp. 7) 石川県 (1982) 尾添川流域自然環境保全対策調査報告書. 92pp. 8) 石川県環境部 (1982) 夕日寺健民自然園自然環境調査報告書. 114pp. 9) 石川県土木部 (1987) 犀川総合開発事業辰己ダム建設環境影響評価書. 142pp. 10) 水野昭憲 (1981) 哺乳類. 白山地域自然環堂調査報告書. 74~83, 石川県環境部. 11) 水野昭憲・八神徳彦 (1985) 白山高山帯自然史調査報告書. 107~111, 石川県白山自然保護センター. 12) 中橋典子・大串龍一 (1980) 石川県におけるカヤネズミ採集記録. 金沢大学日本海域研究所報告 12 : 91~92. 13) 大串龍一 (1980) 能登のネズミ類. 能登の文化財 14 : 74~76. 14) 大串龍一 (1985) 能登七つ島大島のドブネズミ *Rattus norvegicus* について. 金沢大学日本海域研究所報告 17 : 59~66. 15) Ohgushi, R. (1985) Successional Change of Small Mammal Fauna on Kaho-ku-Gata Reclaimed Land with Agricultural Development. *Appl. Ent. Zool.* 20 : 450~457. 16) Ohgushi, R. (1986) Difference in the Efficiency of Four Types of Rodent Traps. *Appl. Ent. Zool.* 21 : 627~629. 17) 大串龍一・佐野明 (1982) 河北潟干拓地のノネズミ相 (第5報) ——とくにドブネズミ個体群の年変動——. 金沢大学日本海域研究所報告 14 : 37~52. 18) 大串龍一・徳本洋 (1986) 舩倉島・七つ島の陸上動物相. 金沢大学日本海域研究報告 18 : 1~20. 19) 大串龍一・徳本洋 (1986) 陸上動物. 舩倉島・七つ島の自然. 43~71, 石川県環境部. 20) 大串龍一・徳本洋・江口元章 (1980) 能登七つ島の陸上動物相. 金沢大学日本海域研究報告 12 : 33~48. 21) 大串龍一・中橋典子・中村浩二 (1978) 犀川上流倉谷地区において採集された小哺乳類. 石川県白山自然保護センター研究報告 4 : 79~82. 22) 大串龍一・定塚謙二・徳本洋・益子帰来也 (1976) 哺乳類. 羽咋市, 羽咋郡地域自然環境調査報告書 1~3, 石川県公害環境部. 23) 大串龍一・他 (1983) 辰口町の動物. 辰口町史 第一巻 自然・民俗・言語編 287~441. 24) 大沢賢治 (1976) 獣類 (白山の動植



第6図 ジネズミの分布
▲ : 採集された地点
△ : 採集されなかった調査地点

摘要

1 石川県でここ15年間に行われた小型哺乳類の調査地点33地点の記録をもとにして, 各種類の分布傾向と主な生息場所について報告した。調査地点のうち17は著者自身の, 5はわれわれの研究室のメンバーの調査であり, 11は他の調査報告からの引用である。

2 現在までに石川県下で記録された野ネズミ類は8種類, モグラやトガリネズミ等食虫類は6種類であるが, ここではわれわれの調査を中心にネズミ類5種類, 食虫類3種類の分布と生息状況について述べた。

3 石川県下で最も広く, かつ多様な環境に住んでおり最も優勢なのはアカネズミである。ヒメネズミはこれに次ぐが, 低地にはあまり住まない。ただし能登半島では海岸近くまで分布する。

ハタネズミ亜科のハタネズミとスミスネズミは平地草原と山地森林に分かれて広く生息している。

食虫類ではヒミズとジネズミが低山帯を中心に広く生息している。

- 物). 早稲田生物 18: 35~41. 25) 信太照夫 (1983) 地区の小哺乳類相. 石川県白山自然保護センター研究報告 9: 51~55.
- 白山北稜の小哺乳類相. 石川県白山自然保護センター研究報告 9: 57~65. 26) 渡辺直之 (1983) 金沢市二又

(1988年2月4日受領)
